

令和2年度事業報告

概要

昨年度は、世界中で新型コロナウイルスの感染という前例のない事態となり、事業へ大きな影響が出てしまいました。1月には日本でも感染が確認され、感染者数が急速に増加したことから、4月に総理大臣による「緊急事態宣言」が出され、感染予防のため、外出の自粛や会議、各種イベントの中止などが求められました。当公社及び関係団体におきましても、新型コロナウイルスの影響で様々な事業の中止を余儀なくされ、計画した多くの事業が実施できなくなってしまい大変残念な1年となってしまいました。

農地の利用集積促進に関しては、農地の集積・集約化を図ることが急務であります。この課題に対応すべく、平成26年度から宮城県農地中間管理機構であるみやぎ農業振興公社と業務委託契約を締結し、農地中間管理事業を推進し、従前より実施している農地利用集積円滑化事業と並行し事業推進を実施してきましたが、法律改正により令和2年4月以降は、農地中間管理事業に一本化され、農地の利用集積促進に関して市公社は、農地中間管理事業を主体に活動を実施していくこととしました。令和3年3月末の累計面積は、農地利用集積円滑化事業が995ha（前年比143ha減）、農地中間管理事業が627ha（前年比112ha増）で、両者の合計で1,622ha（前年比31ha減）になっています。また、担い手の農地利用集積状況は、令和3年3月末で集積率52.3%（前年51.6%）となっています。

農業経営改善支援事業については、農業経営改善計画（認定農業者の申請）の作成支援・審査、角田市農業青色申告会活動の支援等を行い、農業経営改善の支援を行ってきました。

農業人材育成関係では、あぶくま農学校関係で、角田の次代を担う若い人たちの育成の場としてきた「風の塾」は、角田市農業経営者会議や角田地域担い手育成総合支援協議会と共催しながら、若手経営者を対象に「みやぎ農業担い手サミット」への参加支援等を行いました。また、新規就農者対策として開催してきた「土の塾」は、新型コロナウイルス感染の影響により開催できませんでした。さらに「農業経営実践塾」につきましても、「出前塾」として参加していた東京都目黒区の「商工まつり」や「消費生活展」が中止となり実施できませんでした。

都市消費者等交流事業では、友好都市である目黒区との結びつきを重点的に取り組んできました。以前行われていた目黒区の小学校が学校行事として市内の小学校との農村交流体験は未だ実現していませんが、目黒区内の交流実行委員会が学区内の小学生を募集して、田植え、稲刈りの時期に交流が行われるようになってきていました。しかし、これも新型コロナウイルス感染の影響により、事業が軒並み中止となってしまいました。

そのほか「特別会員事業」や目黒区内での「油面住区まつり」などを通して、角田の農産物を紹介したほか、「みどりの交流事業」として8種類820本の苗木を供給しました。

以上、令和2年度の主な事業活動の概要についてご報告いたしました。このほか、計画に基づき実施した各事業の詳細は以下のとおりです。